ISSN 0915－5171

グリーントピックス

No.71

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場

北海道桧山管内 江差町で栽培されるヒバ（ヒノキアスナロ）普及の取り組み

これまで林業試験場では、道南地域の郷土樹種「ヒノキアスナロ：通称、桧（ヒバ）」に着目した試験研究を進めてきました。桧山（ひやま）の地名は、ヒバが由来とされています。特に江差町では、かつてヒバが広域に生育していたことから、地域の貴重な資源として利用されてきました。しかし近年、ヒバの苗木高騰と担い手不足により、造林技術の伝承や普及啓発の機会の消滅が危惧されています。ここでは、ヒバを普及するために地元で長年尽力されている中心的人物と、林業試験場が地元と連携して取り組んだヒバ普及活動について紹介します。

写真－１　ヒバ増殖に 50 年以上携わる坂野正義氏（左）、同氏が指導するヒバ挿し木法（中）、挿し木後、坂野さんを中心に枝打ち等の丁寧な管理がなされているヒバ林（右）

坂野正義さんは、1997 年から江差町でヒバ挿し木による植樹を続け、現在までに 10 万本以上のヒバを植樹してきました（写真－１）。また坂野さんは、ヒバの増殖・管理技術だけでなく、地元の役場職員や子どもたちを対象に、植樹を通した山つくり・環境保全の重要性も普及されています。坂野さんらの取り組みは、地元の劇団により脚本製作された「ヒバの森から」という演劇で、多くの方々に親しまれています（写真－２）。また江差町の木工職人の方々は、ヒバ材普及のため、100 年以上前のヒバの古材を活用した家具を制作されています。林業試験場では、江差町のヒバ材の手触りや香りを身近に感じる機会をさらに増やすことを目的として、地元の木工職人と共同で、ヒバの古材を活用した名札ケースを作成しました（写真－３）。ヒバの名札ケースには、ヒノキアスナロの「あすなろ＝（明日なろう）」の名前のように、前向きに努力する姿勢を持ち続けたい、という坂野さんや地元の方々の想いが込められています。

（森林環境部　環境Ｇ　速水将人・橋本朝陽・阿部友幸・脇田陽一、保護種苗部　育種育苗Ｇ　宮田理恵）

写真－２　坂野さんを中心としたヒバ植樹活動（左）と坂野さんが出演する劇脚本の表紙（右）

写真－３　ヒバ古材から製作された家具（左）地元の木工職人と共同製作した名札ケース（右）